

山花政治 改革担当相 戦争補償前向き

8/13 9/3

山花貞夫政治改革担当相（社会党委員長）は十三日の閣議後の記者会見で、細川首相の「侵略戦争」発言に関連し、第二次大戦中の旧日本軍による従軍慰安婦

問題などをめぐる補償に前向きに対処すべきだとの考えを表明した。閣僚が戦争責任として補償に言及したのは極めて異例で、戦争責任問題は朝鮮民主主義人民

共和国（北朝鮮）、台湾を除き、条約上は決着済みというこれまでの政府方針と異なる見解だけに、論議を呼びそつた。

山花政治改革担当相は、首相が所信表明演説で戦争責任で謝罪する考えを示していることについて、「党の方針は首相が国会の所信で内外に鮮明にすべきだと過去にも言っている」と評

価したうえで、補償問題について、「従軍慰安婦問題をはじめとした戦争責任を補償の形で取るべきだ」と述べた。

これに対し、石田幸四郎総務庁長官は「賠償責任の議論は決着済みであり、それを気にしては日本の責任論が不明確になる。この問題は賠償責任問題とは別個のものだ」と強調。また、大内啓伍厚相も「これまでの条約や取り決めに根拠からくつがえすようなことがあつてはならない」と補償に慎重な姿勢を示し、戦後処理をめぐる社会党と公民両党間の足並みの乱れが表面化した形ともなった。